

やまがた CS 便り

コミュニティ・スクール

三校（山潟中・山潟小・桜が丘小）合同版

令和7年7月

No.2



作成：桜が丘小学校

第2回「学校運営協議会(三校合同会)」開催！

7月1日（火）、今年度2回目の「学校運営協議会（以下CS）」が開催され、5名のCS委員と3校の教職員が集いました。また、この日は8名の新潟市教育委員会の方が来校され、新潟市内では珍しい三校合同CS会議を参観されました。

今回のCS会議の主な内容は以下の三点です。

- (1) 授業参観
- (2) いじめ防止連絡協議会
- (3) 熟議・意見交換



(1) 授業参観

会長よりご挨拶をいただいた後に、今回の会場となった桜が丘小学校の授業を参観しました。児童たちはCS委員の方々の訪問に緊張しながらも、いつも通りしっかり授業を受けていました。

三校合同CS会議は三校が順番に会場となるため、各学校の授業の様子が見られる良い機会となっています。

(2) いじめ防止連絡協議会

各学校の校長から、いじめ防止のための基本方針や取組、今年度に入ってからはいじめの現状や対応等について報告がありました。

「学校運営協議会」とは…
“コミュニティ・スクール”
(略してCS)のことだよ！
保護者・地域・学校が一体となって
「これからの社会をたくましく
生き抜く力の育成を目指し
「地域とともにある学校」づくりを
進める仕組みだよ！



新潟市いじめの防止等のための基本的な方針

【いじめの定義】

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

【基本理念】

いじめは、どの児童生徒にも起こりうる、深刻な人権侵害であることを認識し、児童生徒が互いに認め合い、支え合い、高め合う人間関係を築くことができるよう、学校、保護者、地域が互いに信頼関係を構築し、それぞれの役割を自覚して、いじめのない社会の実現に向けて取り組む。

【学校としての責務】

- 分かる授業・できる授業や、一人一人を生かす教育活動の充実、さらには保護者、地域との協力体制の構築を通して、いじめを生まない学校づくりに努める。
- 教職員が、いじめに対して積極的、組織的に対応し、児童生徒と共に解決を図る。
- いじめの解決に向けて外部機関との連携が必要な場合には、警察、児童相談所等の関係機関との連携を積極的に進める。

(裏面に続く→)

子どもたちが「いじめのない明るく楽しい学校生活」を送ることができるように、各学校で実施されている「各学校のいじめ未然防止のための取組」の一部を紹介します。

【山潟中学校】

- 「しろばと隊（いじめ撲滅推進委員会）」の生徒による「昼休みのパトロール」や「いじめ見逃しゼロ集会」等の自治活動を行っている。
- いじめ早期発見のために「生活アンケート」を毎月実施し、「オレンジノート（生活ノート）」を毎日回収することで、生徒のささいな変化を見逃さないよう情報収集に力を入れている。



【山潟小学校】

- 自己肯定感・所属意識を高める「縦割り班活動」や児童が主体的に企画・運営する「寄っといで活動」を実施し、支持的風土の醸成に努めている。
- 山潟小スタンダードを定着させるとともに、アンケートや教育相談の充実、いじめ未然防止に向けた教育プログラムの確実な実施に取り組んでいる。

【桜が丘小学校】

- 「あいさつ運動」「道徳教育」「あったか言葉」「あったか態度」の奨励を通して、いじめを生まない雰囲気づくりに力を入れている。
- 日頃より「ほめる」「励ます」ことを基本にし、児童一人一人との人間関係を構築するように努めている。



CS委員からは、いじめ確認後の対応について等の質問が寄せられました。各学校では、正確な実態把握のための丁寧な聞き取りを行い、速やかに保護者へ連絡して事実を報告しています。また、該当児童生徒に適切な支援・指導を行う等、全教職員が一致団結してチームで問題解決にあたっています。

（3）熟議・意見交換

「いじめを生まない学校づくり」のために保護者・地域との連携が必要となります。そこで、「地域との連携、取組等について」熟議・意見交換を行いました。

【地域の取組】

- 地域全体で子どもを見守り、いじめ未然防止等に努めるため、山潟地区三校合同のいじめ防止連絡協議会を開催し、情報提供・意見交換を行っている。
- いじめ未然防止のための講演会を各学校で開催している。
 - ・2023年度は山潟中学校、2024年度は山潟小学校で実施した。今年度は桜が丘小学校で実施の予定。
- 「地域のイベント・行事」への参加を通して、子どもたちの自己肯定感・所属意識を高め、いじめ防止につながるよう力を入れている。
- ネットトラブルを回避するために、家庭教育が大事なので、地域でも問題意識をもち保護者に向けた啓発活動に力を入れていきたい。

